

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	長野県	市町村名	上田市	大学名	
派遣日	令和4年1月17日(月曜日) 15:15~15:25 Zoom 接続テスト 講師の先生と事務局で動作確認等 15:30~ 参加者入室 15:45~ 開会 15:50~16:50 講演「支援者と子どもたちの課題とこれから」 16:50~17:10 懇談(質疑応答など) 17:15 閉会				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / <u>遠隔</u>				
派遣場所	Zoomによるオンライン開催 (対面による講演を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため遠隔による実施に変更)				
アドバイザー氏名	小島祥美准教授 東京外国語大学 多言語多文化共生センター長				
相談者	上田市教育委員会学校教育課及び外国籍児童生徒支援教員、上田市人権男女共生課 上田市多文化共生推進協会(AMU)他				
相談内容	市内には上田市多文化共生推進協会及びボランティアが運営する6か所において日本語教室を開催しており、また、小学校4校、中学校2校に日本語教室が設置されているが、それらの外国籍の子どもへの生活支援や学習支援に携わる方々を対象に、日ごろの支援における悩みや支援の課題などについて助言をいただきたい。 ・指導が難しい子どもへの対応について ・母語と日本語との関係で留意することについて ・進路指導のあり方について				
派遣者からの指導助言内容	外国籍者は就学義務の対象外だが、外国人の子供の就学状況の把握状況や日本語指導が必要な児童生徒の状況やその生徒に対する施策の実施状況などについて資料を基に説明していただいた。 不就学ゼロを目指す取り組みをしていることを教えていただき、日本語が分からないために「勉強が分からない子」と扱われないように、学習意欲の低下を招かないようにすることが大切だと教えていただいた。 その他次のとおり助言をいただく。 ・進路指導のあり方について ・日本語能力の把握とDLAについて ・JSLカリキュラムについて ・地域の公民館活動のなかでできることについて ・初期集中型教室と指導員派遣型のどちらがより有効かについて				

(様式3)

相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none">・母語と日本語の習得状況によって支援の仕方が異なってくるので、指導者はDLAをうまく活用することによって、子どもたちの困り具合を把握し、学習支援のための指導計画の助けとしていきたい。・支援のなかで外国につながる子どもたちの自己肯定感をいかに高めることができるかが勝負という言葉をいただき、教育委員会では初期集中教室に加えて支援者の派遣をすることによりそのような子どもたちに寄り添った支援ができるよう引き続き尽力していきたい。・地域の公民館活動のなかでできることについて実例を挙げていただいたので、今後の実施について検討していきたい。・実力があっても言葉が分からないだけで出来ないことにされたりすることがないようにすることや、子どもが意欲関心を持つことが大切だということなど、講演から改めて感じたたくさんのヒントを活かせるように取り組んでいきたい。
--------------------	--

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、[文部科学省ホームページ](#)で公開いたします。